

本村の浜の山近くにあります。石を円形状に積み重ねた真ん中に自然石の石塔が建てられており、集落の人々はここを浜ん山の祭場と呼んでいます。毎年1月5日頃、その年の無事を祈ってシュエイ（潮井）を取り、祭が行われていたそうですが、現在は行われていません。

現在の浜の山の祭は、旧暦2月19日に御崎神社・千人熊・田の神・イゼ祭と合わせた潮祭のひとつとして行われています。潮祭は潮風災害よけとしての浜の山とそれを守ってきた祖先に感謝し、豊作を祈願する祭です。

まず御崎神社で神事を執り行った後、神社下の海岸で禊をし、20cmくらいの丸石を拾い、浜の脇にある千人熊（遭難船の漂着者を祀っているといわれる）をお参りします。そして浜の山の石塚をお参りし、海岸で拾ってきた丸石を石塚の周りにお供えします。次に夏田園にある田開きの神、鹿鳴川にある一番イゼ（井関）と二番イゼの中ほどにある水神にお参りします。最後に直会をし、種蒔きの日取りなどを決めて祭は終わります。

浜の山一帯の防風林は、日欽あるいは六助という人が作り始めたと伝えられており、石塚に建てられている石塔は、その人の墓であるともいわれています。



浜の山の石塚がある防風林



浜の山の石塚